

若狭湾沿い、高浜町の海岸低地におけるトレンチおよびハンドオーガーによる津波堆積物調査

Trench and coring survey of the tsunami deposits in the coastal area along the Wakasa Bay, Takahama, Fukui Prefecture.

山本 博文^{1*}; 卜部 厚志²; 佐々木 直広¹; 高清水 康博²; 片岡 香子²
YAMAMOTO, Hirofumi^{1*}; URABE, Atsushi²; SASAKI, Naohiro¹; TAKASHIMIZU, Yasuhiro²;
KATAOKA, Kyoko S.²

¹ 福井大学, ² 新潟大学

¹University of Fukui, ²Niigata University

2013年度から始まった文科省委託研究「日本海地震・津波調査プロジェクト」の一環として、若狭湾湾奥に位置する福井県高浜町において、津波堆積物調査を行ってきた。

若狭湾周辺地域では、ルイス・フロイスの書簡、兼見卿記など史料により、1586年の天正地震頃に津波が襲来した可能性が示されている。そこで今回、福井県高浜町園部周辺の海岸低地において津波堆積物調査を行った。園部付近では海岸沿いに浜堤が形成されており、その背後は標高2m前後の水田となっているが、かつては湿地帯で鴨場として利用されていたという。

園部地区では、これまで、ボーリング調査およびACEライナーを用いた地層抜き取り調査により、泥層、泥炭層中の複数の層準から分級の良い砂からなるイベント層を見出してきた。このイベント層の内、1m以浅のイベント層に着目し、さらにハンドオーガーを用いたコアリング、トレンチ調査、および道路工事に伴う掘削壁面の観察を行ってきた。

イベント層は厚さ数~10数cmの分級の良い中粒砂を主体としており、場所によっては最大3層、見出された。砂粒子としては、特徴的によく円磨された超塩基性岩の岩片を含んでおり、石英粒子は10数%以下と少ない。また所によっては、貝殻片、有孔虫やウニのトゲなどの生物遺骸を含んでいた。この砂を山側から流れ込む河床の砂および海岸の砂と比較したところ、円磨された超塩基性岩の岩片や有孔虫などの生物遺骸を含む等の点で、海岸の砂と類似しており、海側から供給されたと考えられる。また砂層の基底部には削り込みが認められ、砂層中にはリップアップクラストが含まれていること、また砂の分布は、海岸から500m以上内陸まで認められること等からすると、津波によってもたらされた可能性がある。

またこの砂層の堆積年代としては、泥炭層、泥炭質泥層の炭素同位体年代測定結果からすると、14~16世紀頃と推定される。

キーワード: 津波堆積物, 若狭湾, 高浜, 海岸平野

Keywords: tsunami deposits, Wakasa Bay area, Takahama, coastal plain